

峠の記 上信国境の峠道

その3 . 和美峠(新)から星尾峠まで

上信国境の南半分は上信越自動車道碓氷軽井沢 I / C への入り口になる和美峠から始まる。しかしこの区間の大部分を占める内山峠までは妙義荒船スーパー林道の開通によって幾つかの峠道はズタズタにされ不明な点が多い。また、星尾峠から先の部分は県境が自然の地形とは異なる複雑な入り組みがあり、「その4」の出発点である余地峠までの間は更に詳しく調べてみなくてはならない「謎」の多い区間である。

目次にかえて

名称	2.5万地図	標高	道路種類	所在地(平成大合併前の地名)
20 . 和美峠	19	南軽井沢 1035m	L92	松井田軽井沢線 : 上信越道碓氷軽井沢 I/C への取付け道
21 . 和美峠 (旧)	20	南軽井沢 984m	L43	下仁田軽井沢線 : 中仙道の脇街道
22 . 矢川峠	20	御代田 1165m	山道	: 旧香坂越、上信自然歩道が横切っているが廃道に近い
23 . 志賀越	20	御代田 -	位置未確認	: 上信自然歩道が横切っている
24 . 内山峠 (旧)	20	信濃田口 1063m	旧 R254	: 幹線としては悪路、現 R245 はトンネル 947m で抜ける
25 . 星尾峠	23	荒船山 1280m	山道	: 荒船山と兜岩山の鞍部南牧村星尾から荒船不動尊へ 太字は 2.5 万地図に名前が記載されているもの。

峠は山登りをしていたから否応なしに関心をもっていたのも事実です。山へ入るのに峠を越さなければならぬ所が昔は沢山ありました。スーパー林道なるものがあちこちに沢山作られ、観光開発に使われ、峠の下をトンネルで抜けたり、車で越えられるように迂回路を作ったりしたのです。便利にはなりましたが、その代り辛い思いをして峠に立ち、目指す山々の壮麗な迫力に感激することも少なくなりました。山に登り始めて間もない学生の頃、新緑の季節に戸台川を遡り、北沢峠に立って白雪に輝く北岳を目にしたときの感動は今も思い出します。とは言っても当時の自分には峠は単なる通過点でしかなく、田部重治の「十文字峠」やウエストンが初めて日本アルプスをその目で見た「保福寺峠」或いは「徳本峠」など興味を引かれた峠がないわけではありませんが、峠を目的にすることはありませんでした。

中途半端な気持ちで始めた峠めぐりも、チョッと本気になり始め「峠」に関する本を読んだりしているうちに、上信国境の全峠をリストアップしてみると、意外なことに書物には出てくる峠の名前が 2.5 万地図には載っていなかったり、山道さえ迎えることができない峠がかなりあることに気がつきました。モータリゼーションとダムは峠を変貌させるモトであることがはっきりしてきたのです。こうなると、色々由来の在った峠も何時廃道になるかわかりません。ド素人の年寄りの冷や水でも、とにかく自らの目で見、足で或いは車で通った事実を何らかの記録として残しておくことも、決して無駄にはならないのではないかと、言うわけで 2004 年を中心に走り回りました。

20 . **新和美峠** 1035m (碓氷郡松井田町 ~ 長野県北佐久郡軽井沢町)

2006 年 6 月 1 日

2.5 万地図には名称の記載はなく、新和美峠という正式な名称があるかどうかは定かではない。この

峠は上信越自動車道碓氷軽井沢インターチェンジから R18 への取り付け道として以前の「新軽井沢峠」（この名も定かではない）を改修し、和美峠北側で県道 43 号に合流し R18 へと続く。和美峠から碓氷軽井沢 I/C へも行かれるが、道が細く急峻なため八風平キャンプ場経由の遠回りだが緩やかな道が作られたようである。周り道でわざわざ行って見るほどのこともないと思っているが、何かのついでがあれば一度は通って見なければならぬまいと考えていた。

2006.06.01 今まで活躍してもらった愛車で愛称ロシナンテのブルーバードはこの 4 月末ついに引退を余儀なくされた。18 年 4 ヶ月 174,000 Km、兎に角走らなくなってしまって、ミッションを交換しなければならないと言うお見立てであった。新車は同じく日産の TIIDA LATIO、ブルーバードの Attesa 4WD に較べればお手軽な e-4WD 付きにした。既に 2000Km 走ってようやく身体が車に馴れた。便利なモノが沢山ついてはいるが、使い慣れるまでは間誤付く。ETC なし、カーナビなし、高速はあまり走る機会がない。カーナビを付けると目的地までひたすら機械に導かれ、周りの風物に関心がなくなる。ただひたすら目的地を目指すビジネスには良いだろうが、私の様に「旅」を楽しむには不向きな機械だから No (脳) ナビでズットと通している。この峠は新たな愛車の初峠旅である。

快晴の陽光

群馬県側を望む

長野県側、峠の最高点を望む

に新緑が美しい。気持ちよく浅間越を通りすぎ、中軽から入山峠を通る R18 碓氷バイパスを横に見て、L43 を碓氷軽井沢 IC へ



向かう。和美峠への分岐から 2 Km ほどで県境に達する。峠の最高点を少し過ぎこれまでの片側 2 車線路が 1 車線路になるところに県境がある。

向こうに妙義山が見える。更に下ると高岩山（恩賀の高岩）がどっしりとした横腹をみせて目の前に現れる。標高は



960m (2.5 万地図からの読み) だが立派な岩山である。

以前、山へ行く途中この岩山を見て試しに登って見たが、冬で岩に雪がついているので登る事は出来ても、下りはザイルがなければ危険だと言う判断で中止した事がある。

かなりの急坂をぐんぐん下ると目の前に碓氷軽井沢 IC のゲートが現れる。その手前を左に L92 を辿って松井田の町へ、途中の集落の中からは高岩山が写真で見るドロミテの岩山のように立派に見える。昼食をとって、後は、R18 碓氷バイパスを上り、途中から旧道に入り入山峠（旧）を尋ねる積もりであった。

21. 和美峠 984m (甘楽郡下仁田町～長野県北佐久郡軽井沢町)

和美峠は軽井沢のゴルフ場通りL43を真直ぐ南に進み、神津荒船スーパー林道を分けて間もなく峠に至る。この辺りの峠の特徴である信州側(軽井沢側)は平坦で、上州側は急峻な崖を下ったように



群馬県側



標識のメンテナンスは県で差がある。

長野県側

なっていて、下仁田町本宿まで標高差600mを一気に下る県道43号線である。昔は中山道の脇街道として賑わった時もあったといわれ、「女街道」の峠として女性の取締りが厳しい碓氷峠を避けて和美峠は多くの人々に利用されたそうである。急峻ではあるが今は静かな峠道で、峠を下りるとすぐに見事な桂並木が出迎えてくれる。春の新緑、秋の紅葉いずれの時期も桂の木は美しく惚れ惚れする道であるが、やがて杉の林になり谷間を通るようになると、穏やかな山村風景となり、古い宿場街の本宿にでると内山峠を越えて信州佐久に至る信州街道R254に合流する。

この峠は、西上州の山々或いは神津・荒船の山などへ行く時に良く使う峠である。急峻な崖を下るような道なので、凍結しやすい冬場は出来るだけ敬遠するが、それ以外のシーズンではよく利用する。(従って、初通過の日は不明である)特に秋は、草津が既に雪のシーズンとなり、R292渋峠道が閉鎖となっても、温暖な西上州は紅葉真っ盛りであったりする。そんな時は桂の紅葉から始まるこの峠を越えて行くのは楽しいものである

22. 矢川峠(香坂越) 1165m (甘楽郡下仁田町～長野県佐久市)

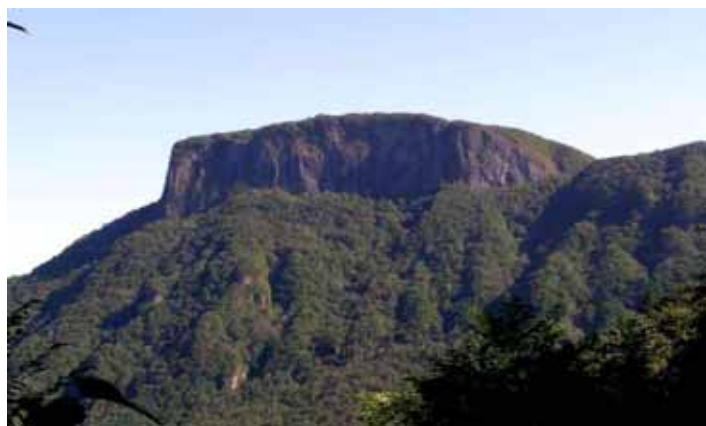
23. 志賀越 m (甘楽郡下仁田町～長野県佐久市)

24. 内山峠(旧) 1063m。内山峠(トンネル 900m) (甘楽郡下仁田町～長野県佐久市)

2004年10月1日

これらの峠道は妙義荒船林道の開通によってズタズタにされており、現在ははっきりと峠道として機能しているのは内山トンネルのみと言ってもよい。内山トンネルはR254が信州佐久と上州下仁田を結び重要な通商路であり、上信越自動車道が長大な八風山トンネルによって開通した現在も、R254を大型トラックや観光バスが轟音を立てて走っている。この辺りの峠道の共通点として、信州佐久側は緩やかな高原状の道に導かれるが、上州側はいずれも急峻な坂道となり、車道は何処も九十九折の道である。例を内山トンネルにとって見ると、佐久からも下仁田からも直線距離は約12Km、佐久は標高約700m、下仁田は標高約300m、内山トンネルの標高は約900m、したがって佐久からは12000mを高度差200m登るだけなのに比べ、下仁田からは12000mで高度差3倍の600mを登らなければならない。

荒船山



妙義荒船林道に沿って、北から矢川峠（香坂越） 志賀越、内山峠があり、これを結ぶ道として上信自然歩道がある。地形の関係で信州側は車道が整備されているが、上州側は山道で一部は廃道のようにになっている。台風一過の10月1日地図や資料で概要を把握したが一部記載が混乱しており、全体の様子を正確に把握し、あわよくばこれらの峠を全て走破しようと出掛けた。



台風 21 号通過中に浅間山が第 3 回の中規模爆発をし、台風の風によって今まで降灰の無かった草津にも少々灰が降った。この日も浅間山は噴煙を北西に流しており、山腹を撫でるように薄い煙が流れていた。佐久市から県道 44 号に入る所がよく判らず少し手間取ったが佐久テクノパークの北側ようやく県道 44 号の標識を見つけ、志賀川に沿って東に進む。道は舗装されており人家の間は細いがまずまずの道幅があり比較的容易に内山牧場入り口の五叉路に達した。



五叉路と標識

別荘地のわかりにくい道を物見山から八風山に向かって進み、途中から妙義荒船林道を走る。ようやく物見山と八風山の長い緩やかな鞍部に出て峠らしきところを探すがはっきりとし

ない。西側から登ってくる細い道を見つけ、東側を見ると車が止められるスペースがあり、その奥に細い道がある。車を降りて細い道を進むと草の茂った広場がありすぐ東側の熊笹の中に上信自然歩道を見つけた。



峠らしき所

どうやらこの辺りが峠らしく上州側を覗いたが下る道は見当たらない。尾根通



しに自然歩道を辿ればこれがどの位置なのかハッキリするのだが、今日はその用意がなく凡その状況を把握したことで満足し、内山峠を確認して、帰りは荒船の

湯で一風呂浴び、高崎で用事を済ませて帰途についた。2.5 万地形図を基本に登山地図、ドライブマップに今日の情報を寄せ集めて、如何にか錯綜した峠の確認が出来たので、次回を期している。

駐車場脇に県境の標識

内山峠 旧内山峠は R 2 5 4 の信州側トンネル出口と内山大橋の中間に、東側から細い旧道を登りトンネルの上を横切って県境の峠に達する。峠を越えて妙義荒船林道へ一旦向かい、途中から急カーブを下って群馬県側の R 2 5 4 に合流する。現在は荒船山登



山のアプローチとして多く利用されているようである。峠の頂上には小さな広場があり登山者の駐車場として利用されている。ここから県境の尾根を辿り荒船山麓岩の西端から上る登山道がある。また、峠の広場から旧道を内山大橋に下る細い車道の他に沢沿いの細い山道がある。ここから荒船山へは2回登っているが、何時も駐車スペースには車が置いてあり荒船山の人気を示している。

もう一つの内山峠

旧内山峠から車道を少し上がると県道44号に合流する。これを信州側に辿ると標高1080mの三叉路を過ぎて地図の読みで1115mの地点で峠に達



峠の広場

する。内山峠から北へ1500mくらいの地点である。この峠は信州初谷温泉から上州へ抜ける細い山道にあり、麓岩を望む平地には県境を示す古い石柱があるが、峠の名前は地図には示されていない。



群馬県：長野県の古い石柱

志賀越を探る 熊倉峰の東を通る県道44号を更に登ると内山牧場の入口の五叉路に達する。ここも峠状の地形だが県境からは500mほど西にずれている。この五叉路を信州側の県道44号を辿ると、志賀牧場からの道に合流する。志賀越の道はR254市野萱から屋敷を経て神津牧場を通り物見山の北の鞍部で志賀越に達し、信州志賀牧場から志賀川に沿って志賀駒込に至る道と記載されているので、L44を辿る内山牧場の五叉路は志賀越ではないと判断できる。

地図(昭文社、山と高原地図「西上州・妙義」)によっては志賀越えと思われる地点に香坂峠と標記されているものがあるが、香坂越は矢川峠の古名でありこの地点を香坂峠と称するのは妥当ではないと思う。県道44号は上州側の屋敷で途切れていて、神津牧場には達していない。志賀越は物見山の東側を巻いて県境を北上し、大きく西に屈曲する地点から県境を辿る上信自然歩道を北へ500m程の間の何処かにあると推定できる。

矢川峠 地図上では1186mと示されている地点から僅かに北へ下った所にあり1165m位であろう。和美峠から下る県道43号の初鳥屋から西に入り高立までは車道がある。更に西へ沢を辿り八風山の南の鞍部矢川峠に達する。矢川峠が香坂越えであろう。香坂川に沿って香坂ダムの下流で志賀川と合流、志賀越の県道44号に合流して岩村田に至る。

前回の探訪で不明のところが多く、**香坂清水** この辺りの峠道を解明するには至らなかった。快晴の11月7日我家から気になっていた国境平を探訪、浅間越(峰の茶屋)を通して、軽井沢から妙義荒船林道に入る。初めは別荘地の中をくねくねと曲り、長野県と群馬県の県境を示す標識を何度も見ながら進む。八風山の登山口から中軽井沢への道に分け、更に進むと香坂清水がある。定連さんが周辺の清掃をし





八風山、物見山から香坂越えのあたり

連山は美しい。国道 18 号へ出て、車坂峠、鹿沢地蔵峠をへて草津へ戻る。

ている。断わって清水を味わう。柔らかな美味しい水だ。更に進むとゲートがあり三叉路になっている。どちらへ行こうかチョット迷ったが、香坂ダムへ下る道は全く未知のルートなので料金を払って、下りにかかる。舗装された良い道を下る。八風山の一部と、物見山までの長い稜線が見渡せるが、いま下って来た三叉路は香坂峠では無いように見える。料金所で確認をしておけば良かったと悔やまれたが、また次の機会にする。八風山トンネルを抜けた高速道の下をくぐり、や

がて香坂ダムへ。平凡なダムだがこの堰堤から眺める

25 . 星尾峠 1280m (甘楽郡南牧村～長野県佐久市)

2002 年 11 月 19 日

この辺りの風光を愛した山の先達大島亮吉が言ったとおり、美しい名前の峠で、名前に負けない小さいが美しい良い峠である。

荒船山への登山路の一つであり、ちいさな切通しになっていて、峠を越えずに、西に迎れば兜岩山へ、東にたどれば荒船山、経塚山にいたる。この峠を挟んで、上州側の麓には威怒牟忌不動が、信州側の麓には荒船不動があり土地の人々に尊崇されていた様子が偲ばれる。

星尾峠

兜岩山は名前のとおり兜の鉢に似た岩山であ



峠から立岩

ものがある。山稜を西に迎ると一登りで御岳山のピークに達する。ここには神官の姿をした銅像と石像があり、神官は木曾の御嶽山のほうを向いていて、ここで遥拝したと伝えられている。兜岩山へは瘠せ尾根や断崖があるが、この道は田口峠に達する自然歩道が開かれている。

荒船不動は武田信玄の信仰の厚かった所と言われており、佐久甲州街道が武田信玄の重要な軍道と

り、荒船山は航空母艦のようなテーブルマウンテンである。どちらも特異な形をしていて何となく尊崇の気持ちを沸かせるように思われる。

2000 年 2 月に荒船山に登った時に今度は兜岩山の登ってみたいと話していたのを実現した時のこと、内山トンネルの信州側入口の少し手前から荒船不動まで車で入り、星尾峠までは 40 分ぐらいの登りで達する。

車の通らない峠道は静かで気持ちが良い。峠は小さな切通しになっていて、峠から上州側の展望は立岩の姿が見えて中々素晴らしい

して機能していた時の事であろう。甲州葦崎から佐久甲州街道を千曲川に沿って北上し、小諸で北国街道にはいれば長野善光寺をとおし、柏原（現黒姫）を経て上杉兼信の越後春日山に至る道として戦略上重要な地位を占めていたばかりでなく、善光寺参りの信仰の道であり同時に通商路でもあったわけである。また佐久から内山峠を越えて上州下仁田から富岡にいたる富岡街道は通商路として重要な地位を占めていた。このような重要な道の守り神としても荒船不動は大切にされていたと思われる。

御嶽山



柏木峠（甘楽郡南牧村～長野県南佐久郡臼田町）と田口峠：柏木峠は果たして上信国境上にあるのか所在不明である。南牧村と臼田町が境を接する所は非常に複雑に入り組んでいる。信州側にある田口峠 1120mはこの境界の山稜上にあり、本来であればこの田口峠が県境の峠となっても地形上はなんら不思議のない所である。何故、このように県境が不自然に大きく上州側に、そして次には信州側に食い込んでいるのか。田口峠と県境の謂れはよくある話だが、次のような謂れであるとのこと。昔高崎の殿様と田口の殿様が一番鶏の声を合図に馬で出発し、落ち合ったところを境にしようと約束した。田口の殿様は無理に鶏を鳴かせて出発したので、峠の向こう側まで行くことができ領地を広めたと言う口承が残っていると言う。現在田口峠に至る上州側の道L93は、広河原で峠へ向かってヘアピンカーブとブラインドコーナーを連ねて登りつく。この途中の 1020m辺りから上州側に向かって山道が記載されており、現在の県境を作る短い山稜を 1030mあたりで横切って、星尾峠から星尾の集落へ下る道に合流する。この山稜を横切る所（1030m）が柏木峠なのかもしれない。



現在の県境は短い山稜を下って南牧川のもう一つの上流である熊倉川の象ヶ滝で渡り、今度は大きく臼田町へ食い込んで、田口峠のある山稜に登りつき、これを辿って余地峠へ至るのである。柏木峠の所在ばかりでなく、県境が複雑に入り組んでいることの原因は何なのか、単に殿様の馬の駆けっこばかりでは無さそうな気がする。田口峠は古くから多くの人々によって

利用されていたそうで、江戸時代にはこの地に日本に2ッだけのフランス式城郭「五稜郭」がある。有名な函館の五稜郭に比べると規模は 1/4 程度であるが、今も一部が田口小学校の運動場の一角に移築されているそうである。この辺りは地形が複雑な上、歴史的に色々な経緯があったようで、なかなか興味深いところである。いずれ番外編として訪れてみたいと思っている。

『峠の記』その4 . へ続く